

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870902489		
法人名	医療法人社団 健癒会		
事業所名	グループホームふれあいの家		
所在地	兵庫県西宮市山口町船坂字下ヶ平柏木谷1825-3		
自己評価作成日	平成24年7月30日	評価結果市町村受理日	平成25年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107		
訪問調査日	平成24年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境と家庭的な雰囲気の中で自由、尊厳、歓びのある生活を送って頂けるように自立支援を行っています。天気の良い日には施設の敷地内を散歩し筋力低下予防や気分転換を図っています。季節を感じて頂けるように近隣のレジャー施設に外出する機会を多く持ち、五感刺激による心身の活性化を図っています。

自然の緑に囲まれた田園風景の広がる見晴らしのよい場所にあるグループホームは、介護老人保健施設とデイケアが併設されており、静かな環境と家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの尊厳を大切にされた支援が行われている。月1回程度外出支援を兼ねた夕食の機会が企画されており、利用者の楽しみとなっている。利用者一人ひとりの支援の方向性を、各職員間で共有し、利用者が持っている力を可能な限り引き出そうとアクティブな支援に取り組んでいる。施設内研修とともに事業所独自の勉強会の採り入れ等職員の資質向上と職員間のチームワークづくりにも取り組み、定着率もよく利用者との馴染みの関係が維持されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自由、尊厳、歓びを基本理念に掲げ 利用者本意のケアや支援が出来るように取り組んでいる	グループホーム独自の基本理念として、地域との交流をもとに「自由」「尊厳」「歓び」を掲げ、実践目標として家庭的な雰囲気・地域との交流を盛り込んでいる。職員の目に付きやすいよう玄関ホール前の掲示板に掲示し、ミニカンファレンス・申し送り・職員会議などで日々のケアを振り返り、職員への浸透に努めている。介護計画作成に当たってのサービス担当者会議で、利用者一人ひとりについて「自由」「尊厳」「歓び」が実現できているか話し合い、理念の具現化に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地理的な要因などで日常的に交流を図ることは難しいが施設が開催するイベントに地域住民を招いたり、地域行事に利用者と職員が参加することで交流を持っている	立地的な環境要因等により、地域の一員として日常的に交流する機会が多くはないが、地域で開催される「アートイン船坂」への出店・参加・見学、施設合同で開催される感謝祭に地域の児童や住民が参加して食事を共にする等の交流を行っている。また、演芸ボランティアの訪問や地域の女性による声楽コンサートも開催されている。	より一層、事業所と地域の人々が互いに支え合う双方向の関係づくりのためにも、地域で必要とされる活動や役割を担うことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて、それらの情報を発信する機会は少ない。入所申し込みや問い合わせがあった際にホーム内の見学や認知症の支援方法など説明を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し委員の方から助言や要望、意見をいただきサービス向上に活かせるよう取り組んでいる	家族代表・民生委員・地域包括支援センター職員・知見を有する者等が参加し、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況、事業所の取り組み、行事予定、第三者評価結果や目標達成計画の進捗状況等について報告や話し合いを行い、参加者からも多くの意見や助言得て、運営に反映させるよう取り組んでいる。例えば、家族同士の交流機会づくりの為、行事を家族参加型にして、行事後の「家族交流会」を立ち上げる計画がある。	より多くの意見・提案等をサービスに活かし、外部者に意見等を表せる機会を設けるために、利用者にも状況に応じて可能な限り参加を呼びかけてみてはどうか。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入所や退所、空所の状況を報告している。運営推進会議は市の関係者の方にも参加していただき助言をいただいている。会議報告書を市へ郵送し協力関係を築いている	運営推進会議に参加している地域包括支援センターの職員を通じて、事業所の状況や取り組み等の情報提供を行うとともに、法令解釈や運営上の相談で連絡を取り合ったり、市の職員も参加する「グループホーム連絡協議会」で情報交換を行なう等協働関係の構築に取り組んでいる。また毎年、市役所職員来訪のもと、土砂災害についての勉強会を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などを通して正しい理解に努めている。安全の観点から常時施錠しているが必要最低限の拘束に取り組んでいる	施設内研修の年間計画に盛り込んで、少なくとも年1回は身体拘束がもたらす弊害や、心理的な拘束も含め禁止の対象となる具体的な行為について学んでいる。出席者・出席できなかった人も必ず復命書を提出し、全員に周知できるように取り組んでいる。法人が開催する身体拘束廃止委員会にグループホームからも委員が出席し、会議の内容を伝達し、また、グループホーム独自でも勉強会を実施して理解をより深めるとともに、家族にも身体拘束により予測されるリスクを説明の上身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は安全上施錠しているが、利用者の外出希望や気配を感じた時は、職員がさりげなく付き添って外出している。	玄関の施錠について、鍵をかけることの弊害や鍵をかけない暮らしの大切さについて話し合う機会を持ち続けることが望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などを通して理解を深めている。虐待には様々なケースがあり、職員間で適切なケアが出来ているか、今後も話し合う機会を持ち虐待防止に努めていく	身体拘束に関する研修と同じ方法で高齢者虐待防止関連法についても学び、心理的虐待等についても知識と意識の向上に努めている。管理者は日々職員への声かけを心がけるとともに、月3回の「希望休」や休憩時間・場所の確保等に努め、職員の「余裕のなさ」が利用者のケアに影響を与えないよう取り組んでいる。また、入浴時等には、掻き傷・皮下出血等がないか全身の観察に留意し、傷等を発見した場合の対応方法や責務を周知徹底し、家庭や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い防止に努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などで学ぶ機会を持っている。必要性を検討する場合は少ない	上記の「身体拘束」「虐待」に関する研修と同じ方法で権利擁護に関する制度について学んでいる。現在、成年後見制度を活用している利用者はいないが、新たに活用・支援を必要とする人があればいつでも支援できる体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約締結や解約、改定等の際は説明を行っている。契約時は契約書の最初から最後まで読み合わせながら時間をかけて説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談時に契約書の内容の概略を説明し、契約時は、契約書を最初から最後まで読み合わせながら、時間をかけて説明し理解・納得を図っている。特に退居条件については誤解が生じないようにしつかり説明している。契約内容に変更が生じた場合は、家族訪問時に説明し、根拠を明確にした書面を送り同意を得ている。入院等で家族から契約解除の申し入れがあった時は、退居後の支援方法についての情報提供を行なう等円滑な退居のための支援を行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書で相談窓口の説明を行っている。意見箱の設置やサービス担当者会議などを通して意見や要望が表せるようにしている。寄せられた意見や要望は委員会を通じて運営に反映させている	毎月発行する「ふれあい通信」で、事業所での生活の様子や健康状態について近況を報告している。家族訪問時には、職員が部屋やソファで応対し、話しやすい雰囲気作りに心がけ、家族が意見・要望等を表せやすいよう努めている。また、年に1回イベントに対するアンケートを実施し、満足度の把握に努めている。また、3ヶ月に1回サービス担当者会議を開き、その際は必ず家族にも参加を呼びかけ、意見・要望を把握する機会としている。外食を兼ねての外出機会づくり等利用者・家族の提案を運営に反映させている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や日々のカンファレンスなどで職員の意見や提案を聞く機会設け運営改善に繋げている	管理者は日常的に職員に声かけを行い、ミニカンファレンス・職員会議等でも業務について話し合い、意見・提案を出し合っている。職員会議では、事前に職員から議題を募り、欠席者も含めて全員の意見が聞けるように配慮している。必要に応じて管理者と職員間で個別面談を行っている。異動は利用者との馴染みの関係に配慮し、最小限にとどめているが、職員の希望により併設デイケアからグループホームへの異動時には挨拶をしっかり行っている。また「洗濯バサミセンサー」の活用等職員からの提案をケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料水準の引き上げや休憩時間、有給休暇など取りやすい環境へ改善され、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を多く取り入れ、働きながら知識・技術の向上ができるように取り組んでいる。医療介護福祉士の研修にも参加しスキルアップを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は3ヶ月に1回開催される市内のグループホーム連絡会に参加し情報交換やネットワーク作りを行い、サービスの質の向上が図れるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や入所時に本人の不安なことや要望など聞き取り、支援の方向性を一緒に相談し安心して生活してもらえるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や入所時に家族から不安なこと要望など情報収集を行い、できるだけ意向に沿えるよう取り組んでいる		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し利用者の現状に即した支援法を見極め、柔軟な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の能力に応じた役割を遂行してもらい、できる能力を引き出し維持できるように支援している。対等な立場から互いに支え合う関係作りに取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族が疎遠にならないように面会や外出・外泊ができるように家族へ協力を依頼している。面会やサービス担当者会議、ふれあい通信を通して情報を共有し、家族と共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、住み慣れた家へ外泊ができるように職員から家族へ協力を依頼している	入居時に生活歴・趣味・意向等を聞き取り、センター方式の様式を活用して記録として残すと共に、日々の利用者との関わりの中から、今までの利用者地域社会との関係を把握している。友人・知人が事業所を訪問した時の対応や、家族に了解を得ての電話の取次、はがきの投函付き添い等馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格を考慮し一人ひとりが孤立せずに利用者同士の交流が持てるように支援している。余暇活動や行事を通して利用者間の親睦が深められるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の了承をもらい、転所先の施設へ面会に行き契約終了後も関係性を大切にしている		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月支援の方向性やサービス内容をモニタリングしている。ご本人の意向に沿ったサービス内容が提供できているか担当職員を中心にカンファレンスを実施している	入居時のセンター方式を活用してのアセスメントで、利用者・家族の思いや意向の把握に努めている。入居後も日常のコミュニケーションを大切に、思いや意向を見逃さないように留意し、パソコンに入力して情報を共有している。意思の疎通が難しい利用者は、今まで共に暮らしてきた経験・体験をもとにその人の言動・表情等から利用者の立場になって意向等を話し合いながら時々の状況に応じた支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを基に生活歴や暮らし方、生活環境、サービス利用の経過などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	電子カルテや職員間の情報共有などで現状の把握に努めている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やカンファレンスで意見やアイデアを出し合い、現状に即した介護計画を作成している	日々の利用者との関わりの中での担当職員や他ユニット職員の気づき、またサービス担当者会議等での家族の希望や意向を踏まえ、基本的には3ヶ月毎に介護計画を作成している。理学療法士等による、杖やシルバーカーの適合評価等も計画の作成に活かしている。家族の意向や利用者の状況が変化した時は期間に関係なく現状に即した、追加・修正介護計画を作成している。全利用者について1ヶ月毎に目標に対する実施状況・達成状況等モニタリングを行い計画の内容を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は電子カルテにSOAPで入力している。カルテや連絡ノート、サービス計画書、カンファレンスなどで情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の老健施設の他職種(PT,OT,ST,管理栄養士)から専門的知識や支援方法について相談やアドバイスをもらい、既存サービスに捉われない柔軟な支援サービスに取り組んでいる。医療連携体制を整え24時間、利用者の健康管理を行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方の畑を借りて芋掘りを行ったり、近隣のレジャー施設などへ外出するなど豊かな暮らしを楽しめるように支援している		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力病院へホールの看護師が同行し受診をしている。入所前からかかりつけ医の受診を継続している利用者もいる。家族対応で受診に行かれる際は看護サマリーを作成し効果的な受診ができるように支援している	協力病院に4週間に1回グループホームの看護師が同行し、受診している利用者が多いが、入居前からのかかりつけ医の受診を継続している利用者もいて、本人や家族の希望を大切に受診支援を行っている。家族が通院介助を行なう時には「看護サマリー」を提供し、「受診の結果」用紙記入を家族に依頼して効果的な受診ができるよう支援している。事業所が通院介助を行った時は「ふれあい通信」等で家族に受診結果を報告し情報を共有している。通院介助や受診結果の報告方法については契約時にしっかり話し合っている。歯科は週1回定期的な往診がある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤2名の看護師が勤務し日々の観察から異常の早期発見に努めている。申し送り等で情報伝達し適切な医療サポートが提供できるように取り組んでいる		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリーを作成し病院に情報提供を行っている。退院前には家族や病院関係者、ホーム職員を交えてムンテラを行い、円滑に退院ができるよう関係作りを行っている	入院時は事業所での暮らしぶりや経過を「看護サマリー」にして、入院先医療機関に本人の支援方法に関する情報の提供を行なっている。入院中は家族とも連絡を取りながら面会に行き、関係者と情報交換を行いながら入院によるダメージを防ぎ安心しての受療と早期の退院に向けた支援を行っている。退院前にはカンファレンス等に参加し退院後の生活について話し合い、退院時には「看護サマリー」の提供を受け、食事やリハビリ面等退院後の事業所での支援に活かしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期対応が必要になった場合には状態の変化に応じて主治医や家族を交えて話し合いを重ね同意と納得を得ながら対応していく方針である	入居時に「看取りの指針」で重度化した場合や終末期において事業所が対応し得る支援方法の説明を行い、同意を得ると共に、家族等の意向を確認している。重度化・終末期対応が必要になった場合には、状況の変化に応じて、主治医・家族を交えて繰り返し話し合いを重ね、個人記録に記録として残し方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践に即した勉強会を開催し実践力を身に付けられるように努めている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署立ち合いで昼夜想定避難訓練の実施している。市職員による勉強会を通して災害時の対応を身に付けている。職員寮が施設に隣接しており、緊急災害時には職員の協力が得られる体制が整っている	年2回施設合同での昼夜想定避難・誘導・消火訓練とグループホーム独自の自主訓練を行うと共に、市職員の来訪による防災勉強会や施設内防災委員会への参加等により、災害時に確実に対応できるように取り組んでいる。合同での訓練と共に、グループホーム独自の訓練も継続する計画がある。立地的に地域の住民の協力が得にくい環境にあるが、職員寮が施設に隣接しており、災害時には職員の協力が得られる体制が整っている。また、水・食料等を共同備蓄している。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや接遇面で気になることは職員間で話し合い、一人ひとりの誇りやプライバシーが守られるように取り組んでいる	プライバシー保護・人権尊重については、マニュアルを整備し、施設内研修の年間計画に盛り込んで研修を行い、周知徹底に努めている。日々の利用者との係わりの中で、排泄時や入浴時のプライバシーへの配慮・言葉かけや接遇については、職員間でお互いに注意し合いながらプライバシーの確保に取り組んでいる。「ふれあい通信」や事業所内に掲示している行事等の写真掲載については家族の同意を得ている。個人情報パスワードで管理して電子カルテで、個人情報記録類は職員室の鍵のかかる保管庫に保管している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表出しやすくするため個別にケアする時間を設けたり、また自己決定できるような働きかけをしている		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体の考えのもとに個々のペースや希望に極力沿う形で生活できるように支援している		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の利用にてカットや毛染め、パーマなど身だしなみができるように支援している。また、好みの服や装飾品、化粧品などを家族に持参してもらうことでおしゃれができるように支援している		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けまで一連の作業を個々の能力に応じて役割を提供している。職員は利用者と一緒に食事をとり、会話をしながら楽しい雰囲気の中で食事ができるように支援している	食事は基本的には併設施設の厨房で作られたものが届けられ、グループホームでは炊飯や汁物づくりを行っている。施設内給食委員会で利用者の希望や好みを探り入れた献立を話し合っている。月1回程度、利用者の希望に沿って、外出支援を兼ねて外食に出かけている。時には事業所でおやつや、お好み焼き・ギョーザ等好みのものを作ったり、盛り付け・配膳・お米とぎ・食器洗い等に利用者も参加しており、声かけや場面設定等に一人一人の好みや力を活かすよう努めている。職員も同じテーブルで同じ食事を摂り、会話を楽しんだり、食事介助を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日管理栄養士の献立によるバランスのよい食事の提供を行っている。食事形態(きざみ食やお粥)やカロリーに配慮して食事の提供を行っている。水分摂取の不十分な人へは嗜好飲料やゼリーなどを提供し、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力や習慣に応じた関わり方で毎食後に実施している		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じてトイレの声かけや誘導、センサー対応を行い排泄の失敗を減らしている。居室にポータブルトイレを設置するなどして、個人の能力に応じた排泄支援を行っている	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、各人の排泄パターンに応じた前誘導等、排泄の自立に向けた支援を行っている。居室にポータブルトイレを設置したり、「洗濯バサミセンサー」の活用等排泄の失敗をできるだけ防ぐよう取り組んでいる。適正な大きさのパッドの使用等でおむつを可能な限り減らすよう努め、パッドの裏には名前を書かずに色ペンで色分けする等プライバシーにも配慮している。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に水分摂取や身体を動かす余暇活動の参加、腹部温罨法、腹部マッサージ、便座に腰掛けて力んでもらう習慣を作っている。適宜緩下剤の調整を行い排便のコントロールを行っている		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回利用者の意向に沿った時間帯でゆっくり入浴できるように取り組んでいる。身体状況に応じて施設の機械浴を利用するなど、安全かつ快適に入浴できるように支援している。入浴拒否がある場合には清拭を行い身体の清潔保持に努めている	基本的には週3回、時間は午前から午後にかけて(9時30分から16時頃)の入浴としているが、利用者の意向に沿った時間帯で、希望やタイミングに合わせて入浴できるよう取り組んでいる。脱衣場にBGMを流したり、入浴剤等も使用して入浴が楽しめるよう努めている。車いすの利用者等は身体状況に応じて施設の器械浴を利用するなど、安全な入浴ができるように配慮している。入浴を嫌がる利用者には、声かけ等を工夫し、無理な日は無理強いせず清拭などで対応している。異性介助を嫌がる人には同性介助で対応する等、羞恥心への配慮については、研修などでも職員に周知徹底している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	談話したり、雑誌やテレビなどを利用することで就寝前の不安感を取り除き、落ち着いて入眠できるような環境や雰囲気作りに努めている。個々の生活習慣に応じて日中居室で休息が取れるように支援している		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書ですぐに確認できるようになっている。また個々の能力に応じた服薬支援を行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や能力に応じた役割を提供し、できる能力の維持に努めている。毎月実施される様々な行事を通して楽しみを持ち、気分転換が図れるように支援している		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ屋外で外気浴や散歩ができるように支援している。気候のいい時期には外出支援を実施し五感刺激による心身の活性化を図っている。誕生月には本人の希望を聞き、年に1回は普段行けない場所に職員同行で外出ができるように支援している	施設内敷地がかなり広く、天気の良い日は、1日1回は敷地内を散歩したり、時には中庭に出てベンチでお茶を楽しみながら外気に触れる機会を作っている。車イス利用者も外出機会が均等になるよう努めている。ほぼ毎月外出行事を計画し、五感刺激による心身の活性化を図るとともに、誕生日をめぐりに利用者一人ひとりに外出の希望を聞き、普段は行けないような場所にも家族の協力を得ながら外出できるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症に因る自己管理の難しさから職員管理になっているが、買い物支援の際などに能力に応じて支払いしてもらおうこともある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯電話を所持し、ほぼ毎日家族と連絡を取り合っている方がおられる。また、必要に応じて施設の固定電話から家族とやりとりができるように支援している		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調による室温管理や夜間の居室や廊下の調光で居心地のよい空間作り努めている。また、季節感のある作品を利用者と一緒に作成し掲示することで、居心地よく過ごせるように工夫している	共用空間は、2ユニットが廊下でつながり、ゆったりと広く、自由に行き来ができ閉塞感が感じられない。また、清潔な環境作りに努めており、利用者に混乱や不快感を抱かせないよう配慮している。玄関前には「ひまわり」等季節の草花を園芸療法士と植栽したり、リビングには利用者と職員の共同作「朝顔」の貼り絵等、季節感を出している。ところどころに椅子やソファを配置し、一人でもまたは少人数で思い思いに過ごせるよう配慮している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>中庭はベンチとテーブルを置き、ホーム内にはソファやテレビ、本棚などを設置するなど、共有空間の充実を図り利用者同士で思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている</p>		
54	(24)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたアイテムを持参してもらうなどして居心地に良い環境作りに努めている</p>	<p>全室が庭に通じる採光のよい居室は、ゆったりとした広さがあり、利用者の使い慣れた家具や道具が持ち込まれている。仏壇や家族の写真、ぬいぐるみ等趣味の品や、好きな芸能人のポスターなど、家族の協力を得ながら、その人らしく居心地よく過ごせる居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室や食席の記名や共有空間の表示、また手すりの設置やバリアフリーにすることで安全かつ自立した生活が送れるように支援している</p>		